

民・国連携による森林総合監理士等会議を開催

【技術普及課】

11月21日から22日の二日間、森林総合監理士等連携会議を長野県との共催で佐久市、小諸市、南佐久郡佐久穂町にて開催しました。

本会議は、中部ブロックの民有林・国有林の森林総合監理士等の資質と技術の向上、並びに情報交換を目的に毎年開催しているもので、今年は四県(長野、岐阜、静岡、愛知)の民有林関係者17名、中部森林管理局職員16名が参加し、カラマツ林業地における主伐・再造林の取組、木材市場流通等について事例紹介や現地視察などを行いました。

一日目は、佐久穂町有林、大曲国有林における「皆伐施業後の造林作業機導入による低コスト化の取組」、「カラマツ大苗低密度植栽、当年生コンテナ苗の植栽試験」について視察を行いました。

二日目は、東信木材センターにおいて、センターの取組、市場の動向についての説明等を受け、その後、各県からの主伐再造林における取組状況などについて情報提供をいただきました。

二日間の交流で、各講師や現地での説明に対し、活発な質疑応答と積極的な意見交換が図られ、民国のさらなる連携に有意義な会議となりました。



植栽試験地(国有林)での視察の様子

ニホンジカ食害防除対策講習会を開催

【岐阜森林管理署】

11月28日、岐阜県加茂郡七宗町の七宗遊園において、県内の林業関係者等70名が参加し、民国連携によるニホンジカ食害防除対策講習会及び現地検討会が開催されました。

本年は、岐阜大学応用生物科学部の安藤正規准教授、池田敬特任助教に講師として参加していただきました。

安藤准教授からは、国定公園等におけるニホンジカによる食害事例が多数報告され、「行政のスピードは、シカの被害拡大に追いつけない。そのため、気づいたときには手遅れということもある」というアドバイスがあり、参加した行政担当者の方々に、深く静かに進捗しつつあるニホンジカ被害の危機感を、しっかりお持ち帰りいただけたと考えています。

また、池田特任助教からは、シカの生態について講義をいただき、捕獲圧によりシカの行動が変化するデータの紹介があり、いわゆるスレジカ(捕獲困難なシカ)をつくらないことの重要性も理解することができました。

講義終了後は、岐阜森林管理署と森林技術・支援センターが七宗国有林内に設置している「獣害対策展示エリア」を視察するとともに、参加者各位の日頃の取組などについて情報交換を行いました。



安藤准教授の講義様子